

平成31年度 静岡市立高等学校 学校経営構想（全日制）

I 教育目標

「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。

II 重点目標

生徒一人ひとりの自立（自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること）に向かって、未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活（学習、部活動、学校行事等）を通して、3つの資質・能力（自己有用感、視野の広さ、主体性）を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。

III 具体的目標と全体の取組

1 基本的な生活習慣の確立

- (1) 清々しい挨拶、品位ある身だしなみ 及び 正しい言葉遣いの習慣化
- (2) 心身の健康管理、清掃の励行 及び 規則正しい生活習慣の確立
- (3) 自他を尊重する心や態度、規範意識 及び 人権意識の向上
- (4) 読書の習慣化 及び 情報・学習センターとしての図書館の積極的な利用

2 特別活動、部活動等への主体的な取組

- (1) 学校行事、HR活動 及び 生徒会活動への積極的な参加
- (2) 社会貢献活動（ボランティア活動）及び地域社会の人々から学ぶ体験活動の拡充
- (3) 部活動を通じた人間性、自主性・社会性 及び 個性・能力の伸長
- (4) 国際交流、海外語学研修、リーダー研修、海外科学研修等を通じた国際感覚の伸長

3 開かれた学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進

- (1) 土曜授業の公開、ホームページ、学校案内等による積極的な情報発信
- (2) 防災教育、交通安全教育の推進 及び 危機管理体制の充実
- (3) 学校評議員による学校評価等、公聴活動を通じた教育活動の点検 及び 改善
- (4) P T A、同窓会等関係諸団体との連携による教育活動の推進

4 確かな学力の育成、学力保障の推進

- (1) 各教科担当教員の連携・協力による組織的な学習指導の徹底
- (2) スタディ・レコードの活用、生徒面談、適切な帰宅時間の保障等、家庭学習時間の確保のための学年・担任及び部活動顧問の連携による支援
- (3) シラバスの効果的活用及び学習評価の研究活動の充実
- (4) 授業アンケートによる授業評価の実施と活用

5 これからの時代を生き抜く人材の育成

- (1) SSH活動（探究活動）を核とした解決困難な課題に立ち向かうことのできる人材の育成
- (2) アクティブ・ラーニングを取り入れた授業等、魅力ある授業づくりの推進（授業公開、研究授業の実施）
- (3) 思考力・判断力・表現力の育成 及び 学習活動等のポートフォリオ化等による新テストへの対応
- (4) 次期学習指導要領の内容理解の推進及び対応の研究

6 キャリア教育、進路指導 及び リーダー育成等の推進

- (1) 入学時初期指導の充実・徹底 及び 3年間を見通したキャリア教育（新BFプラン）の実施及び検討
- (2) 課外学習、勉強合宿、模擬試験等の円滑な運営 及び 進路指導体制の確立
- (3) 生徒、保護者への進路情報の提供 及び 進路面接の充実
- (4) 地域社会、国際社会で活躍できるリーダーの育成 及び 主権者教育の実施

7 科学探究科の指導の充実と第2期 ISEP (Ichiko Science Education Program) の円滑な実施

- (1) 普通科「SS探究Ⅱ」の新規実施をはじめとする第2期 ISEP 2年目計画分の円滑な実施
- (2) 課題研究の充実 及び 理数科研究発表会、科学技術コンテスト等への積極的な参加
- (3) SSH事業評価にかかる研究の充実
- (4) 少人数 及び 習熟度別指導（理・数・英）の工夫 並びに I C Tを活用した指導教材の研究開発

8 職員集団の組織性・協働性の向上と各職員の「主体性・視野の広さ・自己有用感」の醸成

- (1) 学年主任、教科主任、分掌主任、教科リーダー等のリーダーシップ、各所属職員によるフォロワーシップ、アサーティブな職員関係による「チーム市高」としての組織的・協働的な教育活動の推進
- (2) 本校の進む方向性に即した職員研修のさらなる充実による、職員の視野の広さの醸成及び学校改善の円滑な遂行
- (3) 生徒の文武両道の実現を保障し、職員のワークライフバランスの向上を図る、持続可能な部活動方針の策定
- (4) 業務改善チームの新規設置による、職員の学校改善への主体的取組の向上

(補足)

I 教育目標 H30 年度に同じ

II 重点目標 H30 年度に同じ

この重点目標に市高の方向性が込められている。第二期 SSH の考え方、新しい学習指導要領の方向性とも合致している。

III 具体的目標と全体の取組

1 基本的な生活習慣の確立

- (1) H30 に同じ。継続して、「挨拶」について、その意味を再度生徒、教職員で確認し、充実させる。
- (2) H30 に同じ。特別支援教育の視点からの配慮事項は、職員の共有のもとに実施。
- (3) H30 に同じであるが、特に、いじめ、SNS 上のトラブル等の防止、集団への帰属感の向上を図るべく、人権意識の醸成に力を注ぐ。各学年に人権教育担当を置き、学年集会では毎回人権教育の機会を設ける。
- (4) H30 に同じ。

2 特別活動、部活動等への主体的な取組

- (1), (2), (3), (4) H30 に同じ。教科、特別活動、部活動のねらい、計画を明確化し、HP 上に公表して取り組む。

3 開かれた学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進

- (1) H30 に同じ。HP による広報等、積極的に昨年に続き情報発信を行う。部活動の更新の遅れないようにする。
- (2) H30 に同じ。学校施設管理体制を確認。大規模災害時対応の周知や備品等の購入を行い、防災訓練を改善する
- (3), (4) H30 に同じ。H30 は PTA と連携し、防犯ビデオを設置。H31 は創立 80 周年記念行事の遂行。文化祭、体育大会等の主要学校行事を「創立 80 周年記念」の名を冠して実施する。

4 確かな学力の育成、学力保障の推進

- (1) H30 に同じ。授業進度、教材、試験、評価、課題等において、生徒から見て学校の方針が伝わるような統一的な指導、そのための学年教科リーダー（国数英）を核とした教科担当教員による協働体制の構築。
- (2) H30 に同じ。一昨年から課題。文武両道を具現化するための生活習慣・学習習慣確立のための指導を充実させる。
- (3), (4) H30 に同じ。評価活動改善の第一歩として、生徒の授業への主体性を向上させるためにも、各授業（各小単元）冒頭での教師による「本時の目標」の確認、まとめでの各生徒による「この授業で学んだこと」の記述を推進する。

5 これからの時代を生き抜く人材の育成

- (1) 「解決困難な課題に立ち向かうことのできる人材」は、第 2 期 SSH の研究課題。SSH 活動は、アクティブ・ラーニング（AL）の典型。各教科等への波及を期待する。この項目の評価は、SSH 事業評価を用いる。
- (2) H30 に同じ。都市立 5 校のユニットによるアクティブ・ラーニング（AL）の研究、授業改善。AL の評価、観点別評価等、評価について継続研究。
- (3) (4) H30 に同じ。SSH 活動、AL、新テストへの対応。職員研修の一層の充実を図る。

6 キャリア教育（進路指導）及びリーダー育成等の推進

- (1) 初期指導では、新たに人権教育の充実を図る（SNS、学級づくり、裁量枠生徒の指導等）。ホームルーム活動内で実施する BF プランについて、2 年生が新規実施。
- (2), (3) H30 に同じ。
- (4) H30 に同じ。H30 に SS 探究やリーダー研修によって前進したこの取り組みを発展させていく。

7 科学探究科の指導の充実と第 2 期 ISEP の円滑な実施

- (1) 第 2 期 2 年目の実践（SS 探究Ⅰ・同Ⅱ・探プロⅢ・新 SEC の確立、課題研究の充実、評価方法の検討・改善、小中学校との連携等）。SS 探究Ⅰ、Ⅱにそれぞれ複数の担当者をおく。ISEP 企画委員会を機動的に再編する。
- (2) H30 に同じ。とりわけ、課題研究の質を向上させ、各種コンテストへの積極的なチャレンジを図ることを継続。
- (3) 新規。ISEP 企画委員会での検討等により、「科学的リテラシーをもって解決困難な課題に立ち向かうことのできる人材」の評価活動を充実、改善させる。そして、各教科等における評価活動への基点とする。
- (4) H30 に同じ

8 職員集団の組織性・協働性の向上と各職員の「主体性・視野の広さ・自己有用感」の醸成（すべて新規）

- (1) 学校全体の方向性のもと、生徒に疑念をもたせない統一の取れた指導を行うため、また、各職員が「支えあっている感覚」をもって仕事をするため、さらに、生徒のつまづきを受容し寄り添うことのできる懐の深い職員集団となるため、必要不可欠である。また、「働き方改革」の出発点である。
- (2) 土曜授業導入時の趣旨の一つでもある平日 6 時限後の職員研修の充実をより一層図る。これからの時代を生きる生徒たちに必要な市高の教育とは何かとの視点から、AL・SSH・グローバル人材の育成・社会との共創・高大接続・人権教育・特別支援教育等、タイムリーで学校の進む方向性に即した内容で、職員研修のさらなる充実を図る。
- (3) 部活動方針の策定を進める。これまで培ってきた市高部活動の魅力を継続しつつ、職員の異動や中学校との接続等にも対応でき、生徒の文武両道の実現を保障する、持続可能な部活動の在り方を構築する。
- (4) 教員経験年数や市高在職年数によらず、誰もが、分掌・教科等を越えた課題について、建設的に意見を提案し、かつ、責任をもってその改革にかかわることのできる、ボトムアップの学校改善の仕組みを導入する。